

【研究課題名】 770 当院集中治療室におけるPMX施行の現状と予後関連因子の検討

【実施責任者】 麻酔科学教室 教授 川口 昌彦

【実施分担者】 集中治療部 准教授 井上 聡己
中央手術部 学内講師 田中 優
麻酔科学教室 大学院生 小西 康司

【研究の意義】

敗血症および重症感染症例ではサイトカインの放出やエンドトキシン等の末梢血管拡張作用物質のため重度血圧低下を生じる。その際、ポリミキシンB固定化カラムによる直接血液灌流法 (polymyxin B immobilized fiber column direct hemoperfusion, PMX-DHP) を施行し、エンドトキシン、サイトカインを吸着することにより、病態の改善、血圧上昇、カテコラミンの減量などのPMX-DHPの効果が報告されている。しかし、当院におけるPMX施行の現状と予後との関連性は明らかでない。当院におけるPMX施行の現状と予後関連因子を検討することは、今後の治療の方向性や管理法の向上にため重要である。

【研究の目的】

当院において敗血症および重症感染症により集中治療室 (ICU・CCU) に入室した患者で、PMX-DHP 施行の現状と予後関連因子を調査する。

【研究の方法】

研究デザイン：後ろ向き観察研究

研究対象者：2008年1月から2013年10月末までに、奈良県立医科大学附属病院で敗血症および重症感染症によりICU・CCUに入室し、PMXを施行された患者

データ収集：ICU生体情報システム、患者管理表、看護記録及び電子カルテにて以下の情報を抽出し、分析する。

<データ項目>

1) 患者背景

年齢、性別、身長、体重、既往歴 (高血圧、糖尿病、虚血性心疾患、脳梗塞、腎機能障害、人工透析、COPD、肺炎、動脈硬化、アレルギーなど)、原疾患、適応疾患 (敗血症、重症感染症)、起因菌、感染部位

2) 検査項目

エンドトキシン、プロカルシトニン (PCT)、血小板

3) PMX関連

施行回数、血圧 (PMX前後)、カテコラミン量 (PMX前後)

4) 結果

生存率 (ICU・CCUから一般病棟への軽快転出をもって生存症例 or 30日間生存)、ICU・CCU滞在日数、入院期間、転帰 (死亡、転院、退院)

<データ解析>

現状の施行数や施行現状を算出するとともに、アウトカムより生存と死亡の2群に分け、生存と関連する因子を unpaired t test, χ^2 検定、多重ロジスティック回帰分析などを用いて行う。

【研究機関名】 奈良県立医科大学 麻酔科学教室

【個人情報の扱い】

個人情報については、患者情報を外部ネットワークへ遮断されたコンピューターで入力管理する。各症例で統計整理番号を割り付けし、統計学的処理は、患者ID、氏名、生年月日を削除し、別ファイルを作成したうえで、連結可能匿名化情報として、別のコンピューターにて行う。

【本研究に関する問い合わせ先】

研究責任者：麻酔科学教室 川口 昌彦

〒634-8522

奈良県橿原市四条町 842

TEL 0744-22-3051